

# EMT 250 エレクトロニック・リバーブレーター

## イントロダクション

1976年にAESコンベンションでEMTによって発表され、2007年にTECアワードの殿堂入りをしました。純粋なエレクトロニック・システムによってアンビエンスを作る最初のデジタル・リバーブレーション・デバイスでした。一つのリバーブ・プログラムとアイコン・レバーによる操作でEMT 250は、レコード制作者の中で書くことができないツールとして、また今までに作られたものの中で最もよく良いサウンドのリバーブとして広く考えられています。約250台が作られましたが、EMT 250はレコード上では計り知れない影響をスタジオ・レジェンドのGeorge Massenburg、Bruce Swedien、Allen Sides等多くの人に与えました。「Ocean Way Recording」においてAllen Sidesのユニットからキャプチャーし、EMT Studioteknik社によってエンドースされています。またEMT 250設計者のBarry Blesser博士によって彼の資料からプラグインと使用するために再設計され、EMT 250のUADバージョンはエミュレーションを越えて、現物のユニットと全く同じアルゴリズムを実現しています。そして、オリジナルの25,000ドルに比べるとかなり安価です。

リバーブ・プログラムの他に、UAD仕様のEMT 250は、現物のユニットに含まれているさらに5つのエフェクト(ディレイ、フェイズ、コーラス、エコーとスパー)を備えています。4本のクリック・ストップ・レバーがディレイ・タイム、プリ・ディレイとハイ/ローのフィルタリングの主要リバーブ・パラメータを点灯するプッシュ・ボタンは望ましいプログラムを選択します。LEDはプログラム選択とパラメータのポジションを決めるのに視認性を高めます。ハードウェアのようにプラグインは「クアッド」で動作します。フロンとリアのアウトプットスイッチを使用して2組の別々のステレオ出力にアクセスすることが可能です。追加の「Digital Only」機能の特徴は、EMTアイコンを通してドライ/ウェット、ウェット・ソロと、バイパスを可能にしました。

## EMT 250スクリーンショット



EMT 250プラグイン・ウィンドウ

## 機能の概要

### プログラム・モード

EMT 250には6つのエフェクト・タイプがあります。:リバーブ、ディレイ、フェイズ、コーラス、エコーとスペース。これらのエフェクトはEMT 250の「プログラム・モード」と呼ばれています。1つだけのモードを動作させることが可能です。

それぞれのプログラム・モードには4本のメイン・コントロール・レバーに加え、フロント/リアのスイッチで修正可能な最高で5つのパラメータがあります。これらのコントローラーの機能はプログラム・モードによって変化します。(下記を参照)その上、すべてのモードで同じ機能のグローバル・コントロールがあります。

### バリエブル・コントロール・ファンクション

コントロール・レバー1,2,3とフロント/リア・スイッチの機能はモードがどのプログラムで動作しているかによります。これはEMT250を操作するときに覚えておきたい主要な事柄です。後述する表では各々のモードでコントロール・レバーとフロント/リアのスイッチの様々な機能を詳述します。

**重要:**「レバー」とフロント/リアのスイッチの機能は、プログラム・モードによって変わります。

プラグインの・各々の独特なパラメータは異なった値を持ちます。現在のプログラム・モードで有効なパラメータだけをグラフィカル・インターフェースで確認できます。現在のプログラム・モードで有効でない場合でもすべてのパラメータはコントロール・ビューで常に確認可能です。(コントロール・ビューの項を参照)

**重要:** 使用中のプログラム・モードで有効ではないレバー・パラメータの値はセッションまたは、リセットで保存されません。保存されないパラメータは、表19で星印がついています。

異なるパラメータを同じコントロールにマップしておき、プログラム・モードを切り替える場合、パラメータ値は各モードの中で保有されます。(コントロールはそれぞれのモードで設定された先の値へとジャンプします)

### レバー4プリ・ディレイ

全てのプログラム・モードではレバー4は(左右)両方のチャンネルのプリ・ディレイをコントロールします。(最初のディレイは他の処理の前に起こります)0ms、20ms、40msと60msのプリ・ディレイ・タイムは4ステップで設定可能です。レバー4の右側の上にある緑色のLEDは現在のプリ・ディレイ値を示します。

### モノ/ステレオ・オペレーション

EMT 250ハードウェア・ユニットには1つの(モノフォニックの)入力があります。プラグインがステレオ・イン/ステレオ・アウトで使用されている場合、正確なエミュレーションのためにプラグイン入力のステレオ信号は処理の前にモノに集約されます。ドライ信号はステレオで通過します。

処理されたオーディオの(フロント/リア・アウトプット・スイッチで4選択可能な)4つのチャンネルは、すべてのモードで(モノ出力だけを持つ「エコー」を除いて)モノフォニックの入力から発生します。

### フロント/リア・アウトプット

EMT 250ハードウェア・ユニットは4つの別々の出力を備えています。2つの出力は、左右のメイン・アウトプット、または4チャンネル・アプリケーションの「フロント」の左右のアウトプットとして設計されています。その他の2つの出力は、4チャンネル・アプリケーション(または他のクリエイティブな使用方法)での「リア」の左右のアウトプットとして使用可能です。UAD EMT 250は完全に4つの出力の個々の音をモデリングします。

「フロント/リア・アウトプット」スイッチの名前は、最初のハードウェア・デザインに由来します。このコントロール(それはプラグインにより特有です)は、一組になって処理された4チャンネル信号へのアクセスをフロントのL/RかリアのL/Rアウトプットにより可能にします。異なる音が前後の出力で使用される場合、コントロールの周囲の「LED」リングが点灯します。4チャンネル処理(例えばディレイ)を提供しないプログラム・モードの場合、スイッチはモノで処理された出力を合計するために再利用されます。エコー・モードではそれはミュートで入力として機能します。

若干のプログラム・モードではコントロール周囲にある黄色の「LEDリング」は、スイッチ位置を変えると音が変わるのを示すために点灯します。

## オートメーション

アクティブなモードによって、いくつかのEMT 250コントロール機能は変化します。(表にある「バリエーション・コントロール・ファンクション」を参照して下さい)このデザインに対応するために、パラメータが現行のプログラム・モードでアクティブでなくても全てのEMT 250のパラメータがオートメーションと外部コントロール・サーフェスに公開されます。

**重要:** それらのパラメータが現在のプログラム・モードでアクティブでない場合、オートメーションや外部よりコントロールされるパラメータは影響を持ちません。

## モデル化した I/O

EMT 250のすべての入出力キャラクターは、プラグインでも完全にエミュレートされます。これは、例えばA/DとD/Aアンチ・エイリアス・フィルター、(それはリニア位相ではない)、システム・レイテンシー、入力クリッピング、と限られた周波数特性のようなすべての特異性を含んでいます。これらのすべての癖が独特な音を装飾します。

## EMT 250レイテンシー

EMT 250のA/D、D/Aコンバートのためのアンチ・エイリアシング・フィルターは、リニア・フェイズ・フィルターではありません。従って、我々のエミュレーションは、すべての周波数で同じレイテンシーではありません。このように私たちはすべての周波数に正しい遅延補正エンジンを伝えることができません。我々が報告できる値は低い周波数では良いですが、高い周波数ではオフになります。

例えば、プラグインがディレイ・プログラム・モードでディレイ・タイムとプリ・ディレイの値が0であった場合、未処理のトラックに対して裏返しになったフェイズと混ざってもプラグインは完全にキャンセルされません; 高い周波数は漏れてきます。しかし、ドライ/ミックスのドライ側のレイテンシーと、プラグインがEMT 250パワースイッチ(後述)によってバイパスした場合のレイテンシーは問題が無く、DAWによって完全に補正されます。

## プログラム・モード・コントロール

各々の独特のプログラム・モードの詳細は下記の通りです。そしてその後にグローバル・コントロールの説明が続きます。そしてそれはすべてのプログラム・モードに影響を及ぼします。

## コントロール・ファンクション

表19は各コントロールがそれぞれのEMT250のプログラム・モードにマッピングされるパラメータを示します。詳細は前述の「バリエーション・コントロール・ファンクション」を参照して下さい。

## EMT 250の可変的なコントロール機能

プログラム・モード	レバー1	レバー2	レバー3	レバー4	フロント/リア
リバーブ	リバーブ・ディケイ	LF ディケイ	HF ディケイ(ダンピング)	プリ・ディレイ	アウトプット・ペア
ディレイ	コース・ディレイ・タイム	ファイン・ディレイ・タイム	タイム・アジャストメントを行うL/Rチャンネルを選択	プリ・ディレイ	ステレオ/モノ
フェイズ	フェイズ(カーブ)	無し	無し	プリ・ディレイ	アウトプット・ペア
コーラス	無し	無し	バリエーション	プリ・ディレイ	ステレオ/モノ
エコー	コース・ディレイ・タイム	ファイン・ディレイ・タイム	HF ディケイ(ダンピング)	プリ・ディレイ	インプット・ミュート
スペース	無し	無し	無し	プリ・ディレイ	アウトプット・ペア

注: 星印のついたレバー位置のパラメータ値はセッションで保存されません。

### プログラム・モード

プログラム・モード・ボタンは利用可能なプログラム・モードのどれがアクティブであるかを決定します。6つのプログラム・モードは以下の通りです。:リバーブ(REV)、ディレイ(DEL)、フェイズ(PHAS)、コーラス(CHOR)、エコー&スペース(SPC)。



そのプログラム・モードをアクティブにするためにモード・ボタンをクリックして下さい; ボタンは現在実行中のモードが点灯します。(一つのモードだけが一度にアクティブになります。)各プログラム・モードとその関連するパラメータは以下に詳細な記述をします。

**Tips:** 各プログラム・モードで利用可能なコントロール・マトリックスに関しては、表19を参照して下さい。

### リバーブ

リバーブ・プログラム・モードはEMT 250を有名にしたものと同じクラシックなリバーブ・アルゴリズムを提供します。

#### ディケイ・タイム(レバー1)

レバー1はメインのリバーブ・テイル・ディケイ・タイムをコントロールします。レバー1の左側の赤いLEDは、現在のディケイ・タイムを示します;レバー1の右側の緑のLEDは、無効です。ディケイ・タイムの範囲は(1kHzで)0.4~4.5sです。そして16ステップで選択可能です。

### LFディケイ (レバー2)

レバー2は低周波数帯(300Hz)のディケイ・タイムをコントロールします。レバー左側の赤いLEDは、現在の値を示します。;レバー1の右側の緑のLEDは、無効です。

4つの掛け算を使用可能です。:x 0.5、x 1.0、x 1.5とx 2.0。掛け算はメイン・ディケイ・タイム(レバー1)からの要素を示します。一般的に高い値(レバー位置が上)はリバーブ・テイルの中でより低い周波数をもたらします。

### HFディケイ (レバー3)

レバー3は高周波数帯のディケイ・タイムをコントロールします。レバー左側の赤いLEDは、現在の値を示します。;レバー1の右側の緑のLEDは、無効です。

4つの掛け算を(6kHzで)使用可能です。:x 0.25、x 0.33、x 0.5と最大。最大位置ではHFディケイ要因はおよそ3秒x 1.0です。掛け算はメイン・ディケイ・タイム(レバー1)からの要素を示します。一般的に高い値(レバー位置が上)はリバーブ・テイルの中でより高い周波数をもたらします。

### プリ・ディレイ (レバー4)

レバー4は典型的なリバーブ・プリ・ディレイ・パラメータとして使用されます。詳細については前述の「レバー4プリ・ディレイ」を参照して下さい。

### フロント/リア

リバーブ・モードでは、フロント/リア・スイッチは点灯します。スイッチの設定を変更するとわずかに異なるエフェクトを与えます。詳細については前述の「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。

### ディレイ

ディレイ・プログラム・モードでは(左右の出力チャンネルのために)2台の独立したディレイ・プロセッサを提供します。最高375msのディレイ・タイムは各チャンネルに使用可能です。ディレイ・リピート(フィードバック)はディレイ・モードでは使用できません。;ディレイ・フィードバックを使用したい場合は、エコー・モードを使用して下さい。

**注:** ディレイ・モードでの375msの最大のディレイ・タイムはコース、ファインとプリ・ディレイ・タイムをそれぞれ最大値に設定することによって得られます。

### コース・ディレイ・タイム(レバー1)

レバー1は、現在選択されているチャンネル(左または右の)のコース・ディレイ・タイムをコントロールします。選択されているチャンネルについては、レバー3によって選択されます。

コース・ディレイ・タイムの範囲は0~300msで、それを16ステップで選択可能です。レバー1の右側の緑のLEDは現在の値を示します。;左側の赤いLEDは無効です。

### ファイン・ディレイ・タイム(レバー2)

レバー2は選択しているチャンネル(左または右)のファイン・ディレイ・タイムをコントロールします。チャンネルの選択はレバー3によって行います。

ファイン・ディレイ・タイムは0ms、5ms、10msと15msを使用可能です。レバー2の右側の緑のLEDは、現在の値を示します。;レバー1の右側の赤いLEDは、無効です。

**注:**レバー1と2は両方ともディレイ・タイムをコントロールします。しかしこれらのパラメータは外部コントロール・サーフェスとオートメーションのために個別に公開されません。その代わりに、各チャンネルの一つのディレイ・タイムを公開します。そしてプラグイン・インターフェイスのレバー1と2の両方は値をマッチさせるためにアップデートされます。

### チャンネル・セレクト(レバー3)

ディレイ・モードでは、レバー3はディレイ・タイム・パラメータ(レバー1と2)がどのチャンネル(左または右)に影響を与えるか選択します。レバー3が「L」の位置にある場合、左チャンネルのディレイ・タイムを調節します。;「R」の位置にある場合、右チャンネルのディレイ・タイムを調節します。

レバー3の右側にある緑のLEDはディレイ・タイムを調節するために選択したチャンネルを示します。;レバー3の左側にある赤いLEDは無効です。

**注:**レバー3ポジションはディレイ・モードで「I」は「II - L」の複製です。同様にポジション「IV」はポジション「III - R」の複製です。すべてのポジションはディレイ・タイムを調節するチャンネルを選択するのに用いられます。

**重要:**ディレイ・モードでレバー3は「本当の」パラメータをコントロールしません;それは、グラフィカル・ユーザー・インターフェイスで他のパラメータを調節するのに有効なチャンネルを選択するだけです。この理由からパラメータは外部コントロール・サーフェス、オートメーションに公開されません。そしてそれはセッション時に調節するか、またはプリセットすることが可能です。

### プリ・ディレイ(レバー4)

レバー4は両方のチャンネル(プリ・ディレイ・タイムは両方のチャンネルのディレイ・タイムにくわえられます)への共通のプリ・ディレイとして使用可能です。詳細については前述の「レバー4プリ・ディレイ」を参照して下さい。

### フロント/リア

ディレイ・モードではフロント/リア・アウトプット・スイッチは点灯しません。(音は両方の組の出力は同一です)リア位置の方向へ動かした場合、プラグインの出力はモノラルになります。詳細については前述の「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。

## フェイズ

フェイズ・プログラム・モードは、2つの信号の足し算と引き算による小さい間から生じるコム・フィルター・カーブを作成します。コム・フィルターはソース信号のは一もにつく倍音の振幅を変えます。そして興味深い音を作ります。

*Tips:* プラグインが100%ウェット(またはウェット・ソロが有効)に設定された場合、フェイズは、最も明確です。

EMT 250では、入力は2台のディレイ・プロセッサへ供給されます。;15msの固定ディレイ・タイムによるものと、他方はレバー1によってコントロール可能な0-15msの可変するもの。この可変「タイム・シフト」を変更することによってコム・フィルターのフェイズ(シェイプ)、したがって出力信号の音色を変えることが可能です。

*注:* 多くの「フェイザー」と違って、EMT 250は低周波数発振器(LFO)で可変「タイム・シフト」を調節しません。(それはプロセス名に関係している絶え間なく異なった「シュー」という音をたてているエフェクトをもたらします。この従来の「フェイザー効果」は、マニュアルか、オートメーションでレバー1を動かすことで前後に(素晴らしい結果で)再生可能です。

## フェイズ(レバー1)

フェイズ・プログラム・モードでは。レバー1はコム・フィルターを作成する2つの信号間でのディレイ・タイム(フェイズの「タイム・シフト」)をコントロールします。フェイズ値は0ms~15msの中を16ステップで選択し、使用可能です。

フェイズ・モードで緑のLEDで右レバー1は有効ですが、パネルが表示する(0-300ms)は実際のフェイズ・ディレイ・タイム値ではありません。その代わりにLEDは0-15msの間で相対的な値を表示します。

## プリ・ディレイ(レバー4)

レバー4は、両方のフェイズ・ディレイへの共通のプリ・ディレイとして使用することが可能です。詳細は前述の「レバー4プリ・ディレイ」を参照して下さい。

*注:* レバー2と3はフェイズ・プログラム・モードでは影響を持ちません。

## フロント/リア

フロント/リア・アウトプット・スイッチは、フェイズ・プログラム・モードでは点灯します。スイッチの設定を変更すると、異なるコム・フィルター・フェイズを与えます。フェイズ・モードのエフェクトの性質上、スイッチがリア位置にあり、そしてフェイズ・タイム(レバー1)が最低値と最大値である場合、信号は一方のみの出力だけです。(最低値では右のみ、最大値では左のみ)これは原型のハードウェアと同じ仕様です。詳細については「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。



フェイズに関する詳細な情報は、我々の2008年12月に発行したWebzineの記事「フランジャーとフェイザー」を参照して下さい。

・ <http://www.uaudio.com/webzine/2008/december/doctors.html>

## コーラス

コーラス・プログラム・モードは、オリジナルの信号に加えられる複数の正確ではない効果をシミュレーションすることによって「アンサンブル」効果を作ります。EMT 250では、4台のディレイ・プロセッサに同じ信号を送ることによって達成されます。そして各々が連続的に、そしてランダムにモジュレーションされます。コーラスの複雑さのバリエーションのために様々な実際のアウトプットを結合することが必要な場合、EMT 250プラグインは、4つのポピュラーな組み合わせであらかじめミックスされます。

*注: レバー1と2はコーラス・プログラム・モードでは影響を持ちません。*

## コーラス・モード(レバー3)

コーラス・エフェクトは4つのわずかなバリエーションが利用可能です。(I、II、IIIとIV)レバー3は現在のバリエーションを選択します。

ポジション“I”と“II”はシンプルですが、“III”と“IV”は少し複雑です。ポジション“I”はハードウェアの左フロントと右フロント・アウトプットをコピーします。“II”はハードウェアの左リアと右リア・アウトプットをコピーします。“III”は、左側で左フロントと左リアの両方を結合させ、右側で右フロントと右リアを結合します。“IV”は左側で左フロント、左リアと右リアを、右側で左リア、右フロントと逆相の右リアを結合します。“IV”は疑似的な4チャンネルのサウンドを与えます。

## プリ・ディレイ(レバー4)

レバー4により共通のプリ・ディレイとして4つのすべてのディレイに使用可能です。詳細については、前述の「レバー4プリ・ディレイ」を参照して下さい。

## フロント/リア

コーラス・モードでは、フロント/リア・アウトプット・スイッチは点灯しません。(両方の組の出力は同じ音です)リア・ポジションに動かすとプラグインの出力はモノに統合されます。詳細については前述の「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。

## エコー

エコー・プログラム・モードはフィードバックと可変可能なディレイ・タイムと共にモノフォニック・ディレイ・エフェクトを発生させます。最高で375msのディレイ・タイムが利用可能です。

フィードバック回路はエコー・モードでは常に有効です。フィードバック信号回路は、ループ循環につき約10%減衰し、ダンピングのために調節可能な高周波数アッテネーターを備えています。

**注:** デレイ・モードでの375msの最大のデレイ・タイムはコース、ファインとプリ・デレイ・タイムをそれぞれ最大値に設定することによって得られます。

#### コース・エコー・タイム(レバー1)

レバー1は、コース・デレイ・タイムをコントロールします。コース・デレイ・タイムの範囲は0～300msで、それを16ステップで選択可能です。

レバー1の右側の緑のLEDは現在の値を示します。;レバー1の左側の赤いLEDは無効です。

#### ファイン・エコー・タイム(レバー2)

レバー2はファイン・エコー・タイムをコントロールします。ファイン・デレイ・タイムは0ms、5ms、10msと15msを使用可能です。レバー2の右側の緑のLEDは、現在の値を示します。;レバー1の右側の赤いLEDは、無効です。

**注:** レバー1と2は両方ともエコー・タイムをコントロールします。しかしこれらのパラメータは外部コントロール・サーフェスとオートメーションのために個別に公開されません。その代わりに、各チャンネルの一つのエコー・タイムを公開します。そしてプラグイン・インターフェイスのレバー1と2の両方は値をマッチさせるためにアップデートされます。

#### HF ディケイ (レバー3)

レバー3はエコー・モードでの高周波数のダンピングをコントロールします。レバー3の左側の赤いLEDは現在の値を示します。;レバー3の右側の緑のLEDは無効です。4つの掛け算が使用可能です。; x 0.25、x 0.33、 x 0.5と最大。高い値(レバー位置が上)ほど、より多くのフィードバックを得られます。

#### プリ・デレイ(レバー4)

レバー4は、このモードでのエコー・プロセッサのプリ・デレイとして使用されます。プリ・デレイ・タイムは、HFディケイ・フィードバック・ループにではなく、エコー・タイムに加えられます。詳細については、前述の「レバー4プリ・デレイ」を参照して下さい。

#### フロント/リア

フロント/リア・アウトプット・スイッチはエコー・モードでは点灯しません。(同じモノフォニックの信号がフロントとリアのアウトプットから出力されます。しかし、エコー・モードでのフロント/リア・アウトプット・スイッチには特別な機能があります。

フロント位置ではプログラムは通常の動作をします。リア位置では、エコー・アウトプットが流れている間、その一方でエコー・プロセッサへの入力がミュートされます。スイッチをフロントに切り替えることによって、この特徴はエコーが望まれている特定の通路だけにエコーを加えることに役立ちます。この性質はローランド RE-201で人気のある「ダブ」スイッチと同じです。詳細については前述の「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。

## スペース

スペース・モードでは、とても長いディケイ・タイムによる特別なリバーブ・プログラムと周波数トリバーブ・タイムの直線的な配給です。(すべて同じレイトでの周波数ディケイ)この状態は自然の中に存在しない、そしてプログラムが当初SF作品を目的としたので、「宇宙での反響」という名前を付けられました。

スペース・モードでのリバーブ・ディケイ・タイムはおよそ10秒です。プリ・ディレイとフロント/リアはこのプログラム・モードで唯一の可変パラメータです。

*注:レバー1と2、3は、スペース・モードでは影響を持ちません。*

## プリ・ディレイ(レバー4)

レバー4は、典型的なリバーブ・プリディレイ・パラメータとして使用されます。詳細については、前述の「レバー4プリ・ディレイ」を参照して下さい。

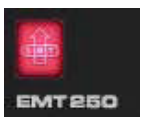
## フロント/リア

スペース・モードでは、フロント/リア・アウトプット・スイッチは点灯します。このスイッチの設定を変更することでわずかな異なる影響を与えます。詳細については、前述の「フロント/リア・アウトプット」を参照して下さい。

## グローバル・コントロール

グローバル・コントロールは、プログラム特有のものではありません。;すべてのプログラム・モードに当てはまります。

## パワー

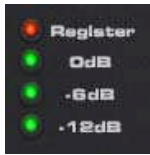


パワー・ボタン(赤いEMTロゴ)は、プラグインが動作中かどうかを決定します。それはプラグインで処理した信号と処理前の信号を比較するために役立ちます。プラグインを無効にするにはボタンをクリックして下さい。;有効にするにはもう一度それをクリックして下さい。

パワーがオフの(消灯している)位置になる場合、プラグイン処理は使用できません。そしてUAD DSP使用率は減少します。

*注: DSPロード・ロックが使用不可能な場合にだけ、UAD DSP使用率は減少します。DSPロード・ロックがかかっている場合(デフォルト)には、パワーをオフにしてもDSP使用率は減りません。*

## インプット・メーター



インプット・メーターは、プラグインに入力されるレベルを示します。原型のハードウェアでは、デジタル・フル・コードで、0dBを上回り6dBに達するときに赤い「レジスター」LEDが点灯します。(すなわち、6dBのヘッドルームがハードウェアにはあります。「0dBデジタル」という意味がまだそのころは標準化されていませんでした)

A/Dコンバーターのディストーション・キャラクターもモデリングされています。従ってEMT 250への入力がオーバードライブしたとき、「EMT-250スタイル」のクリッピングを聞くことができます。

## ドライ/ウェット

ドライ/ウェット・スライダのコントロールは、オリジナルと処理した信号のバランスをとります。範囲は0%(ドライ、未処理)から100%(ウェット、処理された信号だけ)までです。

低い値を選択した場合、このコントロールは、レゾリューションを強めるために対数関係的スケールを使用します。スライダーが中心の位置にある場合、値は15%です。

*注: ウェット・ソロが有効である場合、このコントロールを調節しても影響がありません。*

## ウェット・ソロ

ウェット・ソロ・ボタンはEMT 250を「100%のウェット」モードにします。ウェット・ソロが有効になっている場合、それはドライ/ウェットのコントロールを100%ウェットにすることと同じです。

ウェット・ソロはデフォルトではオンです。そして「クラシックな」リバーブ構成をEMT 250で使用する場合、それは最適です。(エフェクト・グループやバスに置かれ、チャンネル・センドとして使用される場合) EMT 250がチャンネル・インサートで使用される場合には、このコントロールは無効にしなければなりません。

*注: ウェット・ソロは、(EMT 250プラグインごとの)グローバル・コントロールです。値は保存されずに、プリセットされます。*

## アラーム

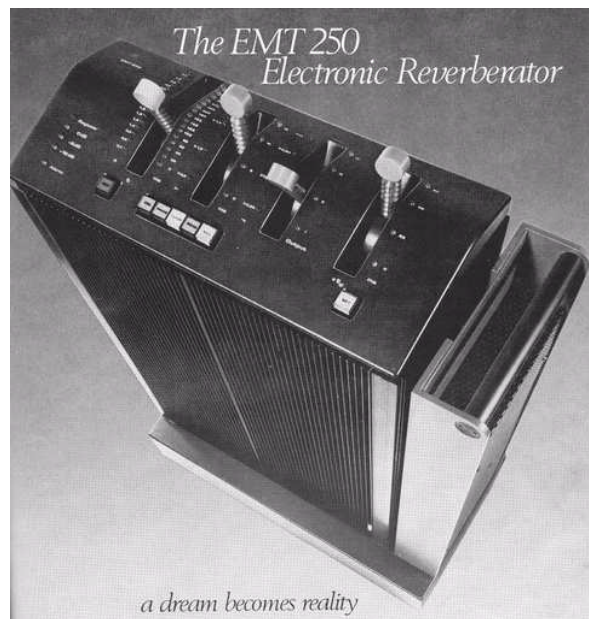
原型のハードウェア・ユニットは、内部の温度アラームを備えています。プラグイン版上では、このインターフェイスは少しのパラメータもコントロールしません。以下のテキストはハードウェアのマニュアルからの抜粋です。

「EMT 250の内部温度は、特定の予め定められたレベル(環境温度が35°Cを上回るか、内部のエア循環機が壊れた場合)に達すると「アラーム」LEDが点灯します。この高温化対策はユニットの操作に作用はしません。しかし、温度が上昇し続けているとパワーは自動的にオフになってしまいます。この早期警戒機能は、すでに進行中のプログラム処理が終了するのを可能にするために追加操作の期間を提供します。

## Webzine 記事

役に立つアプリケーションを含むEMT 250エレクトロニック・リバーブレーターに関する興味深い記事が2009年6月のユニバーサル・オーディオWebzineの「アナログ・オブセッション」という記事で紹介されています。:

・ <http://www.uaudio.com/webzine/2009/june/analog.html>



オリジナルのEMT 250の広告- “夢は現実になる”



EMT 250 エレクトロニック・リバーブレーター・ハードウェア・ユニット

EMT Studioteknik社、Barry Blesser博士、Allen Sides氏

そしてこのプロジェクトに多大な協力を頂いたOcean Way Recordingに感謝いたします。